

念ずれば花ひらく

荒尾市立荒尾第三中学校便り
令和4年2月21日(月)
第20号 文責:森川孝巳

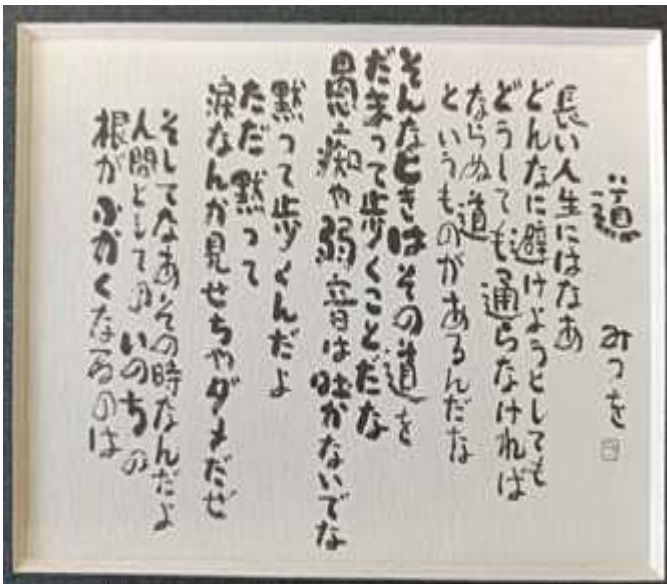
「道」

自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。
どんな道かは知らないが、他の人には歩めない。
自分だけしか歩めない、二度と歩めぬかけがえのないこの道。
広い時もある。せまい時もある。のぼりもあれば、くだりもある。
坦々とした時があれば、かきわけかきわけ汗する時もある。
この道が果たしてよいのか悪いのか、思案にあまる時もある。
なぐさめを求めたくなる時もある。
しかし、所詮はこの道しかないのではないか。
あきらめろと言うのではない。
いま立っているこの道、いま歩んでいるこの道、ともかくもこの道を休まず歩むことである。
自分だけしか歩めない大事な道ではないか。
自分だけに与えられている、かけがえのないこの道ではないか。
他人の道に心をうばわれ、思案にくれて立ちすくんでいても、道は少しもひらけぬ。
道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。
心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
それがたとえ遠い道のように思えても、
休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。



<大阪市福島区 大開公園>

松下電器(現パナソニック)創設者の松下幸之助さんの著書「道をひらく」にある「道」という詩です。3年生は、あとわずかで中学校を卒業しますが、これから先、「〇〇高校で本当によかったのかな」「〇〇の職業に就くためには、〇〇高校の方がよかったのかな」など、様々な迷いや悩み、壁にぶつかることでしょう。私自身も、「今まで歩んできた道は、本当に正解だったのかな」と、自問自答することが何回もあります。そんな時、この詩を読み返し、迷った時こそ、自分を信じて、前に進むのです。人生は、やって後悔することより、やらずに後悔することの方が圧倒的に多いのです。道は自分でひらくのです。



荒尾市男女共同参画メッセージ作品 入賞おめでとう!



例年、荒尾市男女共同参画フォーラムで表彰式が行われていたが、開催中止となったため、本校で賞状を渡しました。

<最優秀賞>

阿部りのん(2-3)「あなたの考えが誰かの個性をうばってない？」

<優秀賞> : 渡辺寧久(3-2)

近藤千愛(1-4)

藤田 葵(1-5)